

平成 29 年 3 月 22 日

京都開催のサイエンスカフェの提案書
(日本学術会議＝日本科学史学会ジョイント・サイエンスカフェ「科学技術史」)

1. 日 時：平成 29 年 5 月 20 日（土）15:00-16:30（予定）
2. 場 所：キャンパスプラザ京都 6F・第一講習室
 住 所：〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 939
 公益財団法人 大学コンソーシアム京都
 アクセス：京都市営地下鉄烏丸線・近鉄京都線・JR 各線「京都駅」下車，徒歩 5 分.
<http://www.consortium.or.jp/about-cp-kyoto/access>
3. 主 催：日本学術会議（科学と社会委員会・科学力増進分科会）
 共 催：日本科学史学会（普及委員会）
 本サイエンスカフェは，日本学術会議と学術協力団体の一つ日本科学史学会の協力・共催にて開催するものである。
4. 後 援：京都市教育委員会（申請中）
5. 話題提供者：

伊藤和行（京都大学大学院文学研究科・教授）

挨拶・コーディネート：

兵藤友博（立命館大学経営学部・教授，日本学術会議・第一部会員）

司 会：

小長谷大介（龍谷大学経営学部・教授，日本科学史学会・普及委員）
6. 題目：「ガリレオー「科学者」の誕生」
7. 内容：

ガリレオ・ガリレイ（1564-1640）は，ニュートンらと並んで近代科学の創始者として知られている．彼の落下法則の発見や望遠鏡による天体観測は，自然現象における数量的法則性の探求，実験や観測による確証といった近代科学の方法を最初に提示したものとみなされている．

一方，現在我々が科学者とよぶ人々が登場するのは 19 世紀のことだった．物理学や化学，生物学といった個別科学が成立し，大学において理学部が設置されたのは 19 世紀に入って

からであり、これらの事件は科学の制度化と総称される。この制度化の中で「科学者」という社会的な存在が登場したのであり、英語で「科学者」を意味する"scientist"という語が造られたのも 1840 年頃のことだった。その意味においては、17 世紀に活躍したガリレオを「科学者」と呼ぶことは時代錯誤である。しかしガリレオは、哲学者とは異なる形態の知識を求めたのであり、彼の活動は新しい知識人の登場を示すものであった。彼の知的活動はのちの「科学者」の登場の先駆として捉えることはできないだろうか。

今回のサイエンスカフェでは、ガリレオの活動を、望遠鏡による天体観測を中心に、「科学者」という新しい知識人の登場という観点から検討したい。

8. 参加費：無料

9. 参加予定人数：30 名

【参加方法】事前申し込みでの受付となります。「氏名」及び「5 月 20 日サイエンスカフェ参加希望」と書いた E メールを hyodot@ba.ritsumei.ac.jp にご送付ください。

10. 連絡担当者：氏名（所属・役職） 兵藤友博
（立命館大学経営学部・教授、日本学術会議第一部会員）
電話番号 075-862-1136
メールアドレス hyodot@ba.ritsumei.ac.jp

なお、本サイエンスカフェ開催の趣旨は、日本学術会議・科学と社会委員会・科学力増進分科会委員長・須藤靖による「日本学術会議サイエンスカフェ開催と登録についてのお願い」（平成 28 年 11 月 25 日改）の内容に従うものです。

全国縦断サイエンスカフェとしてのナンバリングを

☐希望する ☐希望しない

※どちらかに丸をつけてください